



平成 27 年(2015 年) 11 月 30 日 第 715 号 発行 学校法人文京学園 http://bgu.ac.jp

<本郷キャンパス> 学校法人文京学園 文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部 / 大学院 / 文京学院大学ふじみ野幼稚園 千356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196 ☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806 <駒込キャンパス> 文京学院大学女子高等学校 / 文京学院大学女子中学校 千 113-8667 文京区本駒込 6-18-3 ☎03-3946-5301

大学 ふじみ野市誕生10周年 中山教授が「功労賞」受賞

埼玉県ふじみ野市誕生10周年記念式典が10月4日にふじみ野市勤労福祉センターで行われ、功労者表彰式において人間学部の中山智晴学科長・教授が「功労賞」を受賞しました。



式辞を述べる高畑市長

中山教授は、生活・自然・地域・地球環境を専門分野に、「人と自然、そして地球のつながり」をメインテーマとした「貧困問題の改善による地球環境の保全」「合意形成による環境まちづくり」「地理情報を活用した自然環境マップ作り・保全手法の開発」などの課題に取り組んでいます。それらの研究・実践により、持続可能な社会の仕組み作りを目指す第一人者です。

中山教授は2006年からふじみ野市環境審議会の副会長を務める他、環境に視点を置いた地域住民との協働推進、産官学連携事業などを通じ、同市のまちづくりに貢献したことが今回の表彰に繋がりました。

式典では高畑博市長が、上福岡市と大井町の合併によりふじみ野市が誕生した経緯、関係者への感謝、「元氣・健康都市」としての抱負などについて式辞を述べました。上田清司埼玉県知事をはじめ、130名近い来賓と会場を埋め尽くす参列者は、ふじみ野市の発展に思いを寄せました。

中山教授は「上福岡市と大井町が合併する際に、両方の環境系の条例や基本計画をまとめる段階から関わって来ました。環境審議会での10年目の活動を評価いただいたことをありがたく思います。これは本学の環境教育研究センターの学生たちの地域での活動が認められたことでもありますから、それをとてもうれしく感じています」と話しました。



中山教授 表彰状を手に

中山教授と学生たちは、今後もふじみ野市との協働により、幅広い活動を展開していきます。



準決勝戦での本校の強力なアタック!(写真提供=スタジオ・トナミ)

北川茉莉奈(3)の活躍が決め手。2試合とも100%の力で出た。試合は、成徳戦は「チーム全体で春高に出る」という強い一体感があり、1試合目で春高出場を決められたことは自分たちにとって大きなプラスでした。1月の春高は、3

勝利、東京都第二代表として「春高バレー」への出場が決まりました。当日は、本校大応援団の中にスポーツインストラクターの中、スポーツ科学コースの高1が加わり、先輩やクラスメイトへ大きなエールを送りました。



本校の大応援団に囲まれて

11月21日、墨田区総合体育館では、来年1月5日(火)から開幕する「全日本バレーボール高等学校選手権大会(春高バレー)」の出場を懸けた東京都代表決定戦が墨田区総合体育館で行われ、本校バレーボール部が熱戦を繰り広げました。

来月1月に開幕する「春高バレー」出場をかけた全日本選手権東京都代表決定戦が墨田区総合体育館で行われ、本校バレーボール部が熱戦を繰り広げました。

決勝戦では、八王子実践と対戦。絶対に追えないボールを執念でキャッチし、相手へ返す名場面もありましたが、22・25、21・25で惜敗しました。

勝利、東京都第二代表として「春高バレー」への出場が決まりました。当日は、本校大応援団の中にスポーツインストラクターの中、スポーツ科学コースの高1が加わり、先輩やクラスメイトへ大きなエールを送りました。

全員の思いを背負って、大切にしたいと思えます。試合までの短い練習期間切りたいたいです。ユニフォームを替えることができないので、できるチャンスであると考え、精神的にも成長をさせていきたいと思えます。

年々最後の大会、思いっきり全部の力を最大限出し、今回の試合の反省点を改善し、精神的にも成長をさせていきたいと思えます。

高校 バレーボール部 「春高」都代表決定戦で準優勝!

経営学部の高橋由香助教が10月11日、会計理論学会第30回大会において「学会奨励賞」を受賞しました。財務会計・経営分析の研究を専門とする高橋助教は、今回「特別目的会社(SPC)に係る会計基準改定の影響と課題」SPCの連結を中心とした論文を発表。その中で、SPCを利用した不動産証券化事業を対象に、連結会計(子会社を含めた企業グループを単一の事業体とみなす会計手法)基準上のSPCに



高橋助教

高橋助教が「学会奨励賞」受賞。今回の受賞は今後の研究の励みになります。これからこのテーマで頑張っていきたいと思えます。学生の皆さんには、初志貫徹の意気をもって物事に当たれば、きっとどこかで認められることを伝えたいと思えます」と学生にエールを送りました。

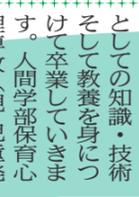
松為教授は、障害者の職業問題に関する研究をライフワークとし、職業リハビリテーションを専門領域としています。障害があることで就業や就業維持が困難な方々が、就業を通して社会参加と自己実現、経済的

人文学部の松為信雄教授が、政府が推進する「一億総活躍社会」の実現に向けた検討会「一億総活躍国民会議」に、民間有識者のひとりとして参画することになりました。

松為教授は「民間から選ばれた15名の中で、障害者の職業問題を専門として参画することになりました。これは、社会にとって重要な問題が前面に取り上げられたことでもあります。地域崩壊や過疎化などの問題に障害者が関わること、地域活性化が実現するはずですが、障害者が自立して生きていくためには、就労にふさわしい人材教育も必要となります」と同国民会議への抱負を語りました。

大学 政府「一億総活躍国民会議」松為教授が民間有識者として参画

ふじみ野キャンパスにある人間学部や保健医療技術学部の学生は、それぞれの学部・学科で専門職としての知識・技術として教養を身につけて卒業していきま



松為教授

ふじみ野キャンパスにある人間学部や保健医療技術学部の学生は、それぞれの学部・学科で専門職としての知識・技術として教養を身につけて卒業していきま

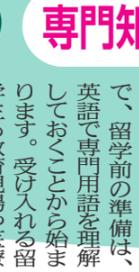
11月13日、パリで連続テロ事件が発生しました。これから留学や海外研修に

ふじみ野キャンパスの国際交流活動は、英語力の他、専門知識が必要となります。休暇中に実施される海外短期フィールドワークは種類が増えつつあります。カナダの医療現場を見学する、マレーシアの病院で理学療法を体験する、アメリカの幼児教育現場で見学実習する、現地の福祉施設を訪問し、時にはボランティアを体験する、カナダの大学で心理学を学ぶ等々で、留学前の準備は、英語で専門用語を理解しておくことから始まります。受け入れる留学生も教育現場や医療現場へ行って実習をするので、サポートする学生は高い「ロビー」コアだけに留まらず、フランス語の能力が求められています。

海外に実際に出てみて、そう言わない異文化社会を体験した松下さんも百瀬さんも「幸せとは何か」「地球市民としての考え方」を模索しているようです。優しく、かつ逞しく成長した卒業生に乾杯!

ふじみ野GSGグループ マネジャー 三村 節子

Green Spirits 専門知識・技術を活かして国際交流



松為教授

ふじみ野キャンパスの国際交流活動は、英語力の他、専門知識が必要となります。休暇中に実施される海外短期フィールドワークは種類が増えつつあります。カナダの医療現場を見学する、マレーシアの病院で理学療法を体験する、アメリカの幼児教育現場で見学実習する、現地の福祉施設を訪問し、時にはボランティアを体験する、カナダの大学で心理学を学ぶ等々で、留学前の準備は、英語で専門用語を理解しておくことから始まります。受け入れる留学生も教育現場や医療現場へ行って実習をするので、サポートする学生は高い「ロビー」コアだけに留まらず、フランス語の能力が求められています。

海外に実際に出てみて、そう言わない異文化社会を体験した松下さんも百瀬さんも「幸せとは何か」「地球市民としての考え方」を模索しているようです。優しく、かつ逞しく成長した卒業生に乾杯!

海外に実際に出てみて、そう言わない異文化社会を体験した松下さんも百瀬さんも「幸せとは何か」「地球市民としての考え方」を模索しているようです。優しく、かつ逞しく成長した卒業生に乾杯!

海外に実際に出てみて、そう言わない異文化社会を体験した松下さんも百瀬さんも「幸せとは何か」「地球市民としての考え方」を模索しているようです。優しく、かつ逞しく成長した卒業生に乾杯!

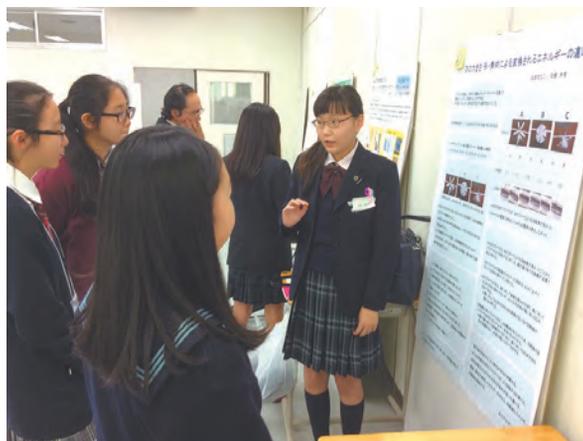
高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)便り ③〇 「第2回SWR」戸山高校で交流

都内女子校で唯一、文部科学省からSSHの指定を受けている本校では、生徒たちは校内の専門家の指導を受けながら積極的に外部での発表をこなし、他校との交流を深めています。

The 2nd Symposium for Women Researchers 第5回は本校で開催し、

(第2回SWR)が11月1日、都立戸山高校で行われました。SWRは、科学技術分野の第一線で活躍する女性たちから直接情報を得る機会の提供を目的に戸山高校で行われており、本校は去年に引き続き2回目の参加となります。

また、SWRは、都立戸山高校、都立多摩科学技術高等学校、本校の3校で共催する「第6回SSH



大盛況の会場でポスター発表する本校生徒(右)

女子交流会を兼ねており、全体で63件のポスター発表がありました。

本校からは、高2理数クラス4名、中2サイエンスコース1名が参加し、それぞれ1件ずつポスター発表を行いました。今回は交流にも重点が置かれ、研究分野が比較的近い他校の生徒と本校生徒が情報を交換し合う姿も見られました。

特別講演として、江崎グロ健康科学研究所の八ッ橋宏子先生が「グリコゲン」元気の素で肌の潤い「トリー」を演題に、グリ

コーゲンと美肌の関係について講演しました。生徒たちは、身近な美容と科学の関係について熱心に学びました。引率の岩川暢澄教諭は「今回参加した本校の生徒たちは、他校生徒との交流を参加前から楽しみにしておりました。実際に自身の研究分野と繋がりのある方と交流することで、研究を進展させるきっかけをつかむことができ、大変満足した様子でした」と成果を喜びました。

大学 キャリア支援施設「The B's Way」始動

本学本郷キャリアセンターでは、就活中の4年生を対象とした「パーフェクトキャリア支援プログラム」を10月1日にスタートさせました。これは、就活生の不安や心配事に最後まで伴走し、本学がコラボレーションしている企業との出会いの場を提供することで内定に導く就活のサポートはもちろん、内定後や入社後のフォローアップ研修など、学生・卒業生・教職員・企業が「四身一体」となって「永久サポート」を行う取り組みです(11月2日付け日経産業新聞、11月17日付け読売新聞などに掲載)。

実施にあたり、NPO法人学生キャリア支援ネットワークと、企業の採用・学生支援に精通する株式会社HRPの参画により、強力なバックアップ体制が実現しました。これまでに、2回のセミナー(10月1・13日)と4回の企業面談会(10月27日、11月10・17・30日)を行いました。企業面談会は、企業8社と前述の二者の協力のもと、堅苦しい説明会形式ではなく、ざっくばらんなフリートーク形式で行われました。協力企業や団体からは、地域の優良企業参加の誘致活動と当日の運営、及びカウンセ



セミナーに参加する4年生

大学 地域連携センターBICS「BCC」日本語を母国語としない母親をもつ子どもと交流

地域連携センターBICSは、ボランティアによる福祉サービスを必要としている地域の方と、社会への貢献に意欲的ボランティア活動に参加したい学生や地域の方々をつなぐ役割を果たしています。現在、11のサークルで、学生たちが地域のNPO団体等と連携して活動しています。

その中のひとつ多摩目・複合型地域づくり「BCC」は、NPO法人 街のひろばとの協働で「日本語を母国語としない母親をもつ子ども」と交流を果たしています。今年8月9日〜11日までは、秩父の横瀬でキャンプを実施。BCC代表の佐々木遼河さん(人間福祉学科3年)は、「初めてキャンプ体験をする子どもたちがほとんどで、最初はいろいろと戸惑っていましたが、次第に慣れて、最後はとても楽しそうでした。中に不登校の子もいましたが、このキャンプ終了後に学校に行けるようになったと聞いた時は、本当にうれしかったです」と笑顔。



本学学生と手つなぎ鬼遊びをする子どもたち

が決まっていますが、この活動が必要とする子どもたちは他にもたくさんいると思いますので、良い形で広めていきたいと思っています。今後は、子どもたちに勉強を教える活動も加えていきたいと考えています」と抱負を語りました。

高校 「島田杯」英語スピーチコンテスト 流暢な英語で闘いを展開



(中列左から)2人目・渋谷さん、宮城さん、廣瀬さん、藏本さん、片岡さん、高さん、矢作さん、金富さん(前列左から)2人目・Lee先生、Bennetts先生、島田理事長、Nisbet先生、佐藤統括校長、南部中高一貫部校長

「島田杯」第43回英語スピーチコンテストが11月18日、ジャシーホールで開かれました。

同コンテストは、「Recitation(暗唱の部)」「Speech(GroupA=一般生徒の部、GroupB=帰国生の部)」と、審査対象ではない「Presentation」で構成されています。「暗唱」は高校1年7クラスの代表7名、「GroupA・B」は1~2年生の選抜生徒・合計5名が出場。

コンテストは呉莉那生徒会長(2擲)あいさつでスタート。「Recitation」では、英語の長文をしっかりとマスターした生徒たちが、感情を込めて披露。「Speech」では、確かな英語力を誇る生徒たちが自分の思いを堂々と披露しました。「Presentation」では、1~2年生混合の2組が、それぞれ「お金は人をより幸せにするか?」「生徒は運動すべき」をタイトルに、パワーポイントのライドショーを見せながら英語で発表しました。

審査員は、本校教員のMr.Allan NisbetとMr.Derek Lee、そして、文京学院と深い交流があるSt.John's/St.Benedict大学のDr.David Bennettsが務めました。白熱したコンテストの結果は次の通りです。

- ★「Recitation」
 - 1位=高怜花(1杉)、2位=矢作奈々(1藤)、3位=金富万季(1梅)
- ★「Speech」
 - 【GroupA】1位=藏本菜ノ葉(1藤)、2位=宮城静菜(2桜)、3位=廣瀬史歩(2桜)【GroupB】1位=片岡まい(1桜)、2位=渋谷ピアンカ(1桜)
 - また、「Speech」の「GroupA」と「GroupB」の1位のうちのいずれかに「島田賞」が授与されますが、今年は片岡さんが獲得しました。

各審査員からは、出場者の健闘を称える講評と共に、「チャレンジすることの大切さ」についてアドバイスがありました。「島田杯」を手渡した島田昌和理事長は、学生時代の経験をユーモア溢れる英語で話しました。その後、佐藤芳孝統括校長が参加者にエールを送り、和やかに閉会しました。



(注)